



不登校の子ども・若者の設立、法人の事業のひとつ居場所である「りんごの木」の柱として、「フリースクールりんごの木」がオープンした。

現在、フリースクールりんごの木には、7歳から21歳の子ども・若者二十七名（その他キッズりんご会員数名）が在籍している。住民の会「越谷らるる」をわゆる「学校」に背を向け立ち上げ、りんごの木を応た子どもたちだが、人がき援しながら、地域社会に向いながらも勉強がきらけて、主に教育問題に関わる講演会、学習会、シンポジウムなどを開催してきた。

また、セルフヘルプグループとしての親の会の開催、子育てや教育についてりんごの木で今一番元気のKちゃんは、9歳（小二）、学校の行ったのはほんの数回。群馬県内の自宅からお

平成十二年に「特定非営利活動法人・越谷らるる」を

くのが得意であきずに一日に何枚も絵を描いている。Kちゃんとは反対に、中学生のI君はとてにぎやかな存在だったが、最近少し控えめだ。「勉強をす

りんごの木の高校生のほとんどは、県立大宮中央高が遊んでいても自ら学習を始める。成長しているんだなあと感じさせる今日この

「フリースクールの子供たち」

自分らしく生きる

越谷らるるご事務長・増田 良枝

頃だ。

同じく中学生のS君はプラモデル講座を開設し、年長の高校生やスタッフにも指導している、ちょっと生

学校に行ったのはほんの数回。群馬県内の自宅からお

17才のR君は、パソコンやテレビゲームの知識が深



増田 良枝（ますだ・よしえ） 越谷市千間台西在住。子供二人の不登校の体

験から現在の活動に入る。大学卒業後、民間企業に勤務、結婚、二人の子供の母。平成二年長女の不登校から、「フリースペースりんごの木」「地域の教育を

年「特定非営利活動法人越谷らるる」を設立。現在、法人「越谷らるる」の事務長兼フリースクールりんごの木スタッフで子育てや教育相談を担当している。特定非営利活動法人フリースクール全国ネットワーク代表理事。53歳。茨城県出身。

のMさんは、この四年間、数えきれないほど何度も、笑顔が返ってきた。そんな

を過ぎてきたのだ。「M 21歳のE君は、軟式野球部の主将として昨年夏の全

間にしばられず、内的な時

当日は卒業生代表になった。彼は「別れの言葉」の中で、「現代社会では、政治の混乱や、経済不況、世・若者たち。それは生易しい生き方ではないだろう。私たちが大人が、多忙な社会の中で忘れていた、「自分らしく生きる」との大切

さ、私は彼らから学んだ。私たちは、四年間の学校生活で学んだ、人と人が支え合うことの大切さ、仲間

年「特定非営利活動法人越谷らるる」を設立。現在、法人「越谷らるる」の事務